

成島麻世

1998年埼玉県生まれ。2021年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業、現在東京藝術大学大学院美術研究科在籍。
2020年CAF2020入選、2021年ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021長谷川新賞。

嘘でも模造でもいい、虚構性の現実として捻り出したタネは自分に戻ってこない。雷に打たれたような野性的実感が欲しくて穴を夢中で掘り進める。不意に現れて、どうして此処にいるのか覚えていないことに気づく。いつも物に置き換わる時、表層の痕跡だけが残りどこまで深追いすべきなのか際限がない。勝ち目がない勝負なのかもしれないが、念じた細く長い糸を手繰り寄せる。

速水一樹

1996年栃木県生まれ。2021年筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻構成領域博士前期課程修了。
2018年クマ財団クリエイター奨学金第2期生採択、2021年筑波大学大学院修了研究芸術専攻優秀作品賞。

ルールや偶然性を表現に取り入れ、「遊び」の要素を以て様々な空間に展開する作品を制作。
日常に遍在する空間や素材が持つ秩序に応答するように、表現手法として的人為的な秩序が介入することで立ち現れる「かたち」の面白さを探求しています。

『bomb and roll』

徒歩、自転車、自動車、電車、スケートボードやキックボードなど、私たちは様々な方法で都市の中を移動している。移動手段が異なれば目に映る情報の速さや量、視点、感じる地面の起伏、聞こえる音や肌で感じる空気も異なる。

同様に「持ち歩くもの」も都市の見方に影響を与える。カメラを手に歩く人は一瞬の奇跡を捉えようと意識を張り巡らせ、虫取り網を持つ子供は飛んでいる蝶や街路樹に留まった蟬を目掛けて縦横無尽に走り回る。

この本は1枚の合板を整数比で分割・彩色した部材のセットを自作の台車に収めて持ち歩き、その部材を都市の様々な隙間に即興で当てはめて再構成する作品の記録。接着やビスでの固定はせず、重力と摩擦力のみを利用しながら建築空間に依存して成り立つ。組み上げて記録を取ったらすぐに分解して台車へ収め、別の場所へ移動する。人々の営みが雑多に折り重なるこの街で、6枚の板切れは都市に潜む空間を一瞬だけ彩り、跡形も残さずどこかへ転がり去っていく。

たなかまさき

1996年神奈川県生まれ。2019年東京造形大学絵画専攻卒業。2018年ZOKEI賞ノミネート。

主に紙を軸に切り貼りし平面作品、折って立体など、平面と立体を横断しながら制作を行っています。

『POSITIVE』

誰でも一回は遊んだ事のある折紙を使って、日常の延長で抽象作品の制作を行った。この本はA面B面と分かれておりA面には平面、B面には立体の作品が記録されている。このアートブックはパズルのように分かれており正しく組み立てる事で、A面は平面作品が現れ、B面は立体作品の制作年や重さなどの情報が分かるようになっている。A面はピースを組み替えて、鑑賞者が自由に制作体験を行える仕様にもなっている。

ひだかもと

1995年福岡県生まれ。2018年東京造形大学グラフィックデザイン専攻卒業。

2019年よりハンマー出版の一員として、また2021年4月よりフリーのイラストレーターとして活動中。

小学校の入学前に、勉強のためにと買ってもらった学習机を落書きでいっぱいになりました。今もしていることは、あの頃と同じだと思っています。

『ゾウさんじゃぐち』

僕は子どものとき、ゾウさんは鼻から水を出すと思っていました。パオンパオンと鳴きながら鼻から蛇口を捨てるみたいに、マーライオンのように、ジャージャーと水を出すのだと。

ハンマー出版 / 下山健太郎

2018年より東京を拠点に活動するインディペンデントパブリッシャー。代表は下山健太郎。これまでに、TOKYO ART BOOK FAIR21（東京 /2021）、港まちアートブックフェア（名古屋 /2021）等に参加、Creative Shower Zine Fair（東京 /2019）、YARINAGE Art Book Fair（東京 /2018）等を企画。

これまで画家として展覧会を開催する中で空間や時間による制約が大きいと感じていました。展覧会といった形式だけではなく作品を見せる方法や、完成した作品だけでは取りこぼしてしまう制作の助走のようなものを見せる方法は無いかなどといった考えから出版物の制作を始めました。自身の展覧会や企画したイベントに関する出版物を作成しアートブックフェアや、海外でのアーティストインレジデンス、展覧会等でプレゼンテーションしてきました。

『On a Friday/ 鹿野震一郎、下山健太郎』

2018年の鹿野震一郎、下山健太郎による二人展「On a Friday」の記録図版です。封筒に収められた4冊組の本になっており、1冊目は下山と鹿野でlineのアルバム機能を使い展覧会開催までに気になった事や、制作途中の風景などを共有した写真をモノクロの冊子にまとめました。2冊目と3冊目は、展示風景をそれぞれの視点で収めた写真で構成されています。4冊目は展示風景を引きで撮影した写真で構成されています。作品制作の過程で見ている風景や気づきと、二人の視点から展覧会を記録する事がコンセプトとなっております。